



世田谷から発信する
ユニバーサルデザインのある
暮らしマガジン

せたがやゆーでいーすたいる

第2号 FREE

ご自由にお持ちください!



ユニバーサルデザイン
普及啓発キャラクター
「せたっち」



小規模店舗等ユニバーサルデザイン改修助成

みんなが嬉しくなるお店や建物に!

小規模な店舗等の出入口、トイレ部分の改修に助成を行っています。ちょっとした整備で、多くのお客様が使えるお店ができます。どうぞ、この助成制度をご活用ください。

世田谷区ユニバーサルデザイン推進条例の基準に則した工事

A 通路(道路から出入口まで)

- 1) 幅120cm以上
- 2) 通行の際、支障となる段差なし



B 店舗等の出入口

- 1) 幅80cm以上
- 2) 通行の際支障となる段差なし
- 3) 戸は自動的に開閉するか、車いす使用者が容易に開閉し
通行可能な構造とし、その前後に高低差なし



C トイレ(不特定多数の者が利用するもの)

- 1) 車いす使用者用便房を1以上設置し、その旨表示
- 2) 腰掛式の大便秘器、手すり等を適切に配置
- 3) 車いす使用者が円滑に利用できる十分な空間を確保
- 4) 直接地上へ通じる出入口から便房までの
通行可能な経路を確保

D 簡易工事(手すり、簡易スロープ等)

- 例) ・出入口の簡易スロープの設置
・出入口の段差部分に手すりの設置

●助成金額：改修に要する経費の2分の1までかつ50万円以下

出入口の手すりの設置や簡易スロープなどの簡易工事の場合、改修に要する経費の2分の1までかつ5万円以下

※平成21年9月30日以前の建物で、店舗の場合200㎡未満のものが対象となります。

※その他の工事、簡易工事の詳細については、ご相談ください。工事内容の組み合わせにより、助成金額が異なります。



世田谷UDスタイル 第2号 —— 平成28年(2016年)3月 発行

世田谷区 都市整備部 都市デザイン課

連絡先：〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27

電話：03-5432-2038

メール：SEA02092@mb.city.setagaya.tokyo.jp

ホームページ：[世田谷区 ユニバーサルデザイン](#) [検索](#)

編集協力 株式会社アーフポイント 有限会社プレイス デザイン カタヤナギエウイチ

広報印刷物登録番号 No.1344



1 UDアドバイザーや障害当事者と ともに案内板のバージョンアップ

二子玉川ライズの案内板は、利用しやすい触知案内板となるように、ユニバーサルデザインアドバイザーと視覚障害者が関わって検証をし、工夫してもらったものです。視覚障害者だけでなく、誰もが使えるような案内板となるよう、高さや見やすさ、案内内容などを検討しました。



2 いろんなところで 出張講座

小学校、大学、街づくり協議会など、様々な場面へ区の職員がお伺いしてユニバーサルデザインの出張講座を実施しています。社会福祉協議会等との団体とも連携して、ニーズに合わせた講座をいたします。



ユニバーサル デザインを 広げています

平成27年度の
世田谷区の取り組み紹介

3 区職員の研修

区の職員の資質向上のため、ユニバーサルデザインを学ぶ職員研修を開催しました。明治学院大学非常勤講師の半田こづえ先生とともに、郷土資料館にある昔の生活用具をアイマスクをして触る体験型の研修でした。

触感から「モノ」を捉えることで、研修生は自分自身の感性を広げながら、お互いに生活用具の魅力を共有しました。視覚にとられない観賞方法を学ぶとともに、合理的配慮の意味も学びました。



無料で使用
できます!

手話の
勉強会の
チラシに

商店街イベントや
子ども向けイベントの
キャラクターグッズに



「せたっち」のキャラクターを使ってみませんか?

ユニバーサルデザインの普及啓発に関することであれば、どなたでもお使いいただけます。使用できるキャラクターはホームページからご覧ください。「せたっち」の形をあしらったまんじゅうやクッキーなど、商品やグッズを通した普及啓発をしてみませんか? ご使用の際は、事前の申請手続きをお願いします。

ユニバーサルデザイン
普及啓発キャラクター
「せたっち」のご紹介

オスのサルで、身長90cm程度。ユニバーサルデザインという言葉の「サル」の発音にかけて、おさるさんのキャラクターとして誕生。UDの普及啓発を一生懸命しています。

その他の取り組み等、詳しくは世田谷区のホームページをご覧ください。

世田谷区 ユニバーサルデザイン 検索

特集

みんなで

「感じる」 リススタイル

アートを 楽しもう



「見る」もの、音楽は「聴く」もの。もちろん、それだけじゃありませんよね。アートは五感を使って感じるものでもあります。ユニバーサルデザインの考え方をアートと組み合わせ、多様な人といっしょに楽しむと、そのことがもっとはつきります。

絵画は見るもの?
音楽は聴くもの?

みなさんは、アート(芸術)というと、どんなイメージを持っていますか?

印象派の絵画、現代アート、演劇、コンサート...

アート(芸術)に対するイメージは?





「世田谷UDスタイル」とは

多くの人がまちを快適に利用できるための工夫や配慮を、自分自身の日常の暮らしに取り入れ実践していくことが「世田谷UDスタイル」です。様々なスタイルをこの冊子では紹介していきます。

第2号の内容

- 特集
みんなでアートを
楽しもう 02
- ワークショップ1
公園の楽しみを広げる
アートをつくろう 04
- ワークショップ2
五感を使って、
建物の歴史を
じっくり感じよう。 06
- インタビュー
純文アーティスト
堀江武史 08
- 二子玉川へ行こう! 09
- ユニバーサルデザイン
UDゼミ開催 10
- ユニバーサル
デザインを
広げています 11

**アートを感じて
もっと感覚を
広げよう**

アートを「感じる」方法を広げることで、もっと豊かで新しい体験につながるかもしれません。

見る、触る、感じる、知る、そしてそれをゆっくりと味わうことで、様々な人と楽しさを共有することにつながるかもしれません。

平成27年度は、アートをテーマにしたふたつのワークショップを通して「感じる」UDスタイルを考えました。「世田谷UDスタイル」第2号では、このワークショップの様子を紹介し、ユニバーサルデザインについて考えます。

UD(ユニバーサルデザイン)とは

年齢、性別、国籍、能力等に関わらず、できるだけ多くの人が利用しやすい生活環境にするという考え方です。

ユニバーサルデザインを学ぶ UDゼミ開催

第1回

9/15
火
Tue

UDまちづくりを考える

東洋大学ライフデザイン学部教授 川内美彦先生



前半の講義では、「障害」観(社会モデル)の考え方や、2016年4月に施行される「障害者差別解消法」の「合理的配慮」についてお話がありました。また、国際パラリンピック委員会のアクセシビリティガイドの内容を日本のバリアフリー法と比較し、考え方の違いについてお話いただきました。

後半の全体でのディスカッションでは、日本は障害者権利条約を批准しているのにも

関わらず、バリアフリー法では人権が尊重されていない。なぜ変えられないのか? という疑問が参加者から出されました。これは、日本の社会全体が問題意識を持っていないことが背景にあると指摘されました。



第2回

10/22
木
Thu

視覚障害者がいきいきとするUDの工夫

明治学院大学非常勤講師 半田こづえ先生



前半の講義では、視覚障害者の日常生活や、視覚障害のある子どもたちとの体験型ワークショップについてお話いただきました。アメリカのフィラデルフィア美術館でインターンをしていた時のお話では、視覚障害者向けに、午前中は美術鑑賞、午後は作品の制作をするなど、全ての人々が美術を楽しむことができるように様々な試みがなされていることを紹介していただきました。

後半は、参加者が各々の生活と結びつけて考

えを深められるよう、3つの班に分かれて、「もっとみんなが情報を得られる選挙活動のアイデア」をテーマにディスカッションを行いました。選挙カーの大きな音での呼びかけは、視覚障害者は交差点を横断する時、車の走行音や歩行者の足音を手掛かりに信号を判断しているので、「選挙カーは交差点付近では音を出さない」といったアイデアが出てきました。



第3回

12/2
水
Wed

音のない世界から考えるUD

内閣府障害者政策委員会委員 松森果林先生



前半の講義では聞こえない立場から「聞こえる人が中心の社会」「テレビ番組やCMの字幕」「情報格差」「まちの中のバリア」「子育て、地域との繋がり」などについてお話いただきました。また、誰もが楽しめる東京ディズニーリゾートの工夫として、「手話キャスト」「指さしコミュニケーションブック」「字幕表示システム」などについて紹介していただきました。

後半のディスカッションでは、「手話」という言葉のほか、字幕でテレビを見ている参加者から「字幕は聞こえない人だけでなく、みんなに便利なものではないか?」「ニュースや大河ドラマで難しい言葉が出てきた時に字幕で確認できるので便利だ」など、様々なコミュニケーションについて意見交換をしました。



二子玉川へ行こう!

今回ワークショップを行った旧小坂邸と二子玉川公園に行ってみませんか。



旧小坂家住宅(瀬田四丁目広場)

旧小坂邸は、実業家で衆議院議員を務めた小坂順造氏(1881-1960)が昭和12年(1937)に玉川別邸として建て、その後一時本宅として利用していた建物です。現在は世田谷区が管理し、利用者に開放されています。見て、触って、ゆっくりできます。緑側では飲食もOKです。

開園時間 ▶ 9:30~16:30
休園日 ▶ 毎週月曜(月が祝日の場合は次の平日)と年末年始
所在地 ▶ 瀬田4-41-21 TEL 03-3709-5471
<http://www.setagayam.or.jp/trust/map/pcp/Index.html>

旧小坂邸は、(一財)世田谷トラストまちづくりの管理運営により一般公開を行っています。



二子玉川公園

国分寺崖線のみどりと多摩川の水辺に囲まれた、眺めのよい公園です。ビジターセンターでは自然に親しめる体験プログラムなど、楽しいイベントを開催しています。ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた日本庭園「帰真園」にもぜひお越しください。

●ビジターセンター
開館時間 ▶ 8:30~17:00
(年末年始を除く毎日開館)

●帰真園
開園時間 ▶ 9:00~17:00
11~2月は16:30まで
休園日 ▶ 火曜(祝日の場合は開園)と年末年始

所在地 ▶ 玉川1-16-1
TEL 03-3700-2735
<http://www.futako-tamagawa-park.jp>



二子玉川ライズ リボンストリート ~まちに開いた地域の庭~

駅から公園までは、二子玉川ライズのリボンストリートを散策しながら行ってみませんか。様々なショップや広場でのイベントを何気に楽しむだけでなく、静かな場所をゆったり歩いたり、エレベーターで屋上に行ってみましょう。そこには別の空間があらわれます。木立があって、池があって、畑まであります。原っぱでピクニックすることもできます。ちなみに、ベンチ下部等の石はビルを建てるときに掘削されてできた多摩川の玉石だとか。地域の自然を意識した素敵な空間です。もちろんユニバーサルデザインの考え方で整備された空間ですので、多くの人が気楽に楽しめます。



TEL 03-3709-9109
<http://www.rlse.sc/>

旧小坂邸まで、ハナミズキの並木をぬけてゆっくり散策しませんか。この通りは、実はチンチン電車「站線」の線路跡でもあります。

花みず木通り(站線跡)
田会で決めた「通りの名前」の看板が1月にお目見え。地元の方が自ら設置したそうです。

道具にする。それを「富士見台」に置いてみる、ということを考えてみました。(残念ながら当日は雨で③はできませんでした)

あえて障害がある参加者のために特別な準備はしませんでした。障害があってもなくても、みなさんが作品づくりに没頭してもらえたので、まずは良かったと思います。ワークショップとしてはどうだったか、みなさんの感想をぜひ、聞いてみたいです。

堀江武史(ほりえ たけし) 府中工務主宰。考古学で培った知見をもとに、縄文人の暮らしを題材に現代アートの作品づくりやワークショップを行っている。



みを広げる

こんな音具をつかったよ!



玉川公園にて

つくろ



1 オリエンテーション



なにやら音の出る道具をつくるらしい。

公園の特徴を説明してもらったよ。見えない人は、さわる地図で確認。



道具一式



2 公園のどんぐりを使って飾り付け



箱に入ったどんぐりを触感で選んだよ。形もさわった感じもいろいろあるんだ!



3 音の出るしくみを作る



今回のワークショップは、半田先生(右側)、堀江さん(左側)に講師になっていただきました。講師については、8・10ページをご覧ください。

今回、二子玉川のワークショップ(04-05頁)を半田さんとともに実施していただいた、堀江武史さんにお話を伺いました。

堀江武史

「見えないものを見る」

縄文アーティスト



縄文とアートがつながる？

子どもの頃から縄文時代が好きで、仕事として考古学に携わってきました。土器などを複製するときに型をとるために、スズ箔をはります。これがとてもきれいで、もしかしたら、この状態を見てもらうことでより多くの人に縄文遺物に関心を持ってもらえるのではないかと、思ったことが発端です。

考古学や博物館学は科学的に厳密なもので、「ひと工夫」加えることは許されません。でも、多くの人に見てもらうために、ファンタジーの世界を加えることがアートの世界では許されます。両方の世界を知っている私がかかわることで「そこにあるもの」を通して「見えな

見えないものを見る感性
時空を超えて

私が縄文遺物に30年関わって、わずかに知り得たことがあります。縄文人は私たちと同等の知能レベルでありながら、時代を生き抜こうとした知恵については我々以上のものを持っていた、ということ。それは彼らの道具を手にしてみればわかります。彼らのデザインは時間を超越した、完成度の高いものです。

縄文時代の道具を紹介して、ここではない場所やここにはない人に想いをめぐらすことができるようになります。それは楽しいことでもあります。時には哀しみを伴うこともあります。例えば、今の季節、暖かい部屋にいながら、寒

現代に生きる私たちは過去に生きた人々の暮らしやほかの場所を生きる人々をもっと身近に感じる必要があります。五感を使って、自身の感性で「見えな

感じるワークショップ

今回は、講師である半田さんの視点をどのように実現するかを考えました。①「そこにあるもの」を使う ②「置く」ものをつくる ③公園の中に「置く」ものをつくる という3つの視点です。

多摩川の流木や公園にある素材を使って、場所を指し示すもの(サイン)として、音を使った

最後にみんなで鳴らしました

公園の楽し



一人ずつ音を鳴らして、その音をからだで表現したよ。はずかしそうなんもいたけど、音が目でも見えるようだったよ。

11/8 二子

アートを

4 音を見てみよう



木の実の観察もしました。



田舎を思い出しました。



5 一言感想



きこえない人の感想、からだの表現から、風鈴(リンリン〜)、豆腐屋さんのベル(カラコロ〜)、学校のチャイム(カラ〜カラ〜)、川の音(ザーザー)、鐘(ゴーン)といった音を感じました

しもを引っ張ると音が出ます。



五感を使って、建物の歴史を じっくり感じよう。——旧小坂邸にて



ひやりとした感覚の變形(ひしがたの鉛棒(なまりわく)に透明ガラスをはめ込んだ「ステンドグラスの窓」。

触



鏡に小坂家の家紋が立体的に彫られているので触ってみる。



見えない人に説明するために自分ですべて「触」のイメージを伝える。



畳に切っただけの「布」を触って確認。



暖炉回りの手触りの違いから部屋の雰囲気を想像する。



説明だけでは理解できなくても触ることで理解できる。

10月4日



味

周囲に面した庭でちよつと休憩。栗のお菓子で季節を堪能。



玄関隣の「茶室」には、にじり口風の「連子窓(れんじまご)」があり、人が訪れると音や気配が茶室に伝わるようになっている。



見

天井から下がる、ローソクを模したデザインのシャンデリアは国産真鍮、しんちゅう製。見上げながら説明を受ける。



各部屋に入ると、窓・屏・障子(しょうじ)を音を出して閉めて、音で部屋の大きさを体感。

音



今日気付いたこと、小坂順造氏の暮らしなどの感想を出し合った。



香

崖線沿いに建つ邸宅。崖の上下では15×20メートルの落差がある。その音を体験するために、上下に分かれて交互に音を出し合い、音で高さを確認した。みどり多い国分寺崖線のフレッシュな空気も十分に味わった。

この建物の管理をお手伝いしています。今日は案内役をつとめました。丁寧に触ったり音を聞いたりして建物を感ずることができ、あらためて小坂順造の人となり、人間性がこの建物に集まっていると思いました。良い材料を使っていますが、華美(かび)にならないところがまたすばらしいと思います。こゝは世田谷区の宝物です。みなさん、ぜひおいでなさい。

トラストまちづくり大学OB
からのコメント